

多種多様な資料が並ぶ3つの展示室 埴輪をはじめ古代の魅力がたくさん！

はにわ博物館には3つの展示室があり、それぞれに見どころや展示されているテーマなどがあります。

●第1展示室

リニューアルオープン最大の見どころである「姫塚出土の葬



姫塚出土「老人の首」



殿部田1号墳出土「琴を弾く男」

列の埴輪」をはじめ、芝山町などで出土した造形美に優れたさまざまな埴輪を楽しむことができます。さらには、写実的な山武地域の埴輪と簡素な利根川流域の埴輪の違いを比較して見ることがができます。

●第2展示室

古墳時代の生活と技術や、古墳から出土した鉄剣・勾玉などの副葬品、復元竪穴住居、集落遺跡から出土した土器などを見ることがができます。また、芝山町最大のイベント「芝山はにわ祭」で用いる古代衣装なども紹介されています。

●第3展示室

芝山町の遺跡から発掘された石器・縄文土器・墨書土器などが並べられています。また、芝山町の古墳分布図がフロアマットとして貼り付けられており、鳥瞰図としてその全容を一望することができます。

●珍しい埴輪の紹介

「鮭の埴輪」

白檜遺跡（芝山町大里）で出土したもので「芝山町指定有形文化財」に指定（写真奥）されている珍しい魚形埴輪です。



「家の埴輪」

殿部田1号墳で出土したもので、屋根の上に鳥がとまっているユーモアあふれる家形埴輪です。



第3展示室「金光寺廃寺跡出土遺物」



第2展示室「芝山はにわ祭」



第1展示室「さまざまな副葬品」



①より慎重に運ばれた馬の埴輪
②③運ぶために細かく丁寧な作業で固定された埴輪

今回の寄託に伴い、観音教寺の博物館から数多くの展示品がはにわ博物館に移動することとなりました。特に、埴輪は取り扱いが非常に難しい割れ物であるとともに、一つ一つが重要な文化財であることから慎重な運搬作業により運び出すことが必要とされました。

重要な文化財および運び出すことが難しいものについては、専門業者の手によって観音教寺の博物館の展示ガラスから一つずつ確実に取り出されることから始まりました。さらに、埴輪などの割れ物については車などで運ぶ際に揺れて傷がつかないようにするために、丁寧かつ緻密な調整の繰り返しのもとウレタン材や布を使いしっかりと固定した上で、一体ずつ寸法された木枠に収めて梱包されました。(馬

埴輪の引っ越し、厳重な体制で はにわ博物館に運び込まれましたー

の埴輪のような大きくて重量のあるものはより厳重に補強) 埴輪を移動させる際も一体ずつリフターと呼ばれる台車に積みまれ、必ず複数人対応で側面と上下全てを押さえることで揺れを防ぎ、高さや段差、周囲に気を配りながらゆっくりと慎重に行われました。

最終的に、トラックによりはにわ博物館に移動してきた埴輪たちは、荷解きを含めて前記した工程を巻き戻すように一体ずつ丁寧な作業で展示場所まで運ばれ、位置や角度などのバランスを細かく確認しながら、納得いくまで何度も調整が繰り返されました。

これら一連の作業は、全て計算された作業工程のもと一つ一つに細心の注意を払いながら、どの工程も必ず複数人で対応するということや、共通認識を徹底させることなどにより、抜群のチームワークで作業が完了されました。

待望のリニューアルオープン！

4月1日のリニューアルオープン以降、土日を中心に町内や県外から多くの方が来館されました。来館者にお話を伺うと「葬列の埴輪群が迫力満点ですごかった」「展示品の多さにびっくりした」「リニューアルを楽しみにしていたので嬉しい」「家の形の埴輪がおもしろかった」「館内の雰囲気素晴らしい」などといった声が聞かれました。(写真は4月1日に茨城県からお越しいただいたご家族)

